第4回　庄内みどころ 再発見

とことこ清川歴史探訪

Supported by 庄内広域行政組合

庄内地方の東の玄関口に位置する、庄内町の清川地区。かつて最上川交通の要所として多くの旅人が訪れた、歴史と文化の薫る宿場町を歩いてきました。

今回のガイド

矢嶋 重治（じゅうじ）さん

きよかわ観光ガイドの会副会長。寒河江市出身で小学校の元教員。「海に憧れて庄内に就職したのに配属は山間部。結局、山に縁があるようです」

芭蕉や天皇も訪れた最上川の宿場町

新庄から庄内へ、鶴岡街道（国道47号）を車で走ると、スノーシェッドを抜けたところで視界がパッと明るくなる。並走してきた最上川と立谷沢川が合流して河原が広がる風景に、庄内に帰ってきたなと安堵する。この地域が今回の訪問先、清川だ。

集落に入って最初に目にとまったのは、平成21年に閉校した木造瓦屋根の清川小学校。近づいて窓から中をのぞくと、板張りの廊下が黒光りして美しい。何十年も、子どもたちが毎日磨いてきたのだろう。人っ子一人いない今の静けさが、何だか切ない。

学校裏の「芭蕉上陸の地」で、ガイドの矢嶋重治さんと落ち合う。「五月雨をあつめて早し最上川」の句碑を前に、「ここには昔、関所が置かれていました」と聞く。「その車道は昭和40年代に川を埋めて造られました。前は、校舎のすぐ脇を流れていたんです」。旧清川村は月山と最上川の間のわずかな平野部に開かれた集落だが、奈良時代から水駅、陸駅の宿場として栄えてきた。明治初期には舟業が72戸、旅館が13戸あり、明治天皇が行幸の折にも滞在された。今でいう仙台駅のような、多くの人と物が行き交うターミナルだったのだ。

清川の治水工事が庄内に息を吹き込んだ

矢嶋さんに導かれ、校舎の脇の杉林に入っていく。「ここは清川を守る防風林。小学校の場所にかつては庄内藩の殿様の宿泊所（御殿）があったため、『御殿林』と呼ばれています。戊辰戦争では戦場にもなり、庄内藩の兵士がここに陣取って、立谷沢川の向こうにいる官軍と激しい銃撃戦を行いました」。今の杉林は二代目にあたるが、当時の杉には銃弾が多数入っていたという。

清河神社の前を抜けると、コンクリートの水路に出会う。「北楯大堰です。余目や藤島の田んぼで使う水を立谷沢川から引いています」。この堰を造ったのは、江戸時代初期の狩川城主、北楯大学利長。利長は10年かけて地勢を調査し、1612年、7千人

小路に置かれた賽の神。毎年1月3日に地域の子どもたちが集まって祭りを行う。

御殿林の杉は、今でも現役!「だし風」から町を守っている。

御諸皇子神社の金剛力士像。昔の人は身体の悪い部分が治るよう、丸めた紙を投げて願を掛けたらしい。

町の中を流れる北楯大堰。この水が庄内一帯を潤している。

超の人民を指揮して4ヵ月がかりでこの堰を完成させた。堰ができたことにより、荒れ地だった庄内平野が3万石の穀倉地帯に変わったという。そしてさらに驚くのが、400年たった今も、この堰の水を利用して米づくりが行われていることだろう。ここ清川は工事の難所だったそうで、工事中の事故で亡くなった方の霊を祀る碑や、利長が神への願掛けに愛用の鞍と鎧を投げた場所という碑も残っており、先人らの労苦にただただ頭が下がる想いだ。

人、物、水が流れゆくみちのくの要所

堰に沿って「御諸皇子神社」へと歩いていく。ここは、源義経が頼朝から逃れる折に弁慶ら一行を従えて旅の一夜を明かしたとの言い伝えがある、由緒ある神社だ。義経ゆかりの「青葉の笛」や「祈願書」など、数々の品も残されている。門の左右には、江戸時代中期に酒田の仏師によって制作された、木造の金剛力士像。町指定の文化財にもなっており、威風堂々たる姿で訪問者に睨みをきかせる。境内のゆるやかな階段を一段飛ばしで上っていくと、本殿のほかにいくつかの神社が現れる。そのひとつが、舟の神様を祀った「船玉神社」。清川には舟に関わる仕事の人が多かったため、かつては特に崇拝者が多く、賑わったという。小高い丘の上にある神社から、清川の町を一望する。隣家の間隔が狭く密集した家々と、多くの車が行き交う鶴岡街道。その向こうには洋々とした最上川。この町には田んぼや畑がほとんどないんですね、と言うと、矢嶋さんは「清川に農家は一軒もありません。ほとんどの家がサラリーマンか、大工や板金といった職人ですね」と笑った。ぐるっと全体を歩いても15分ほどの小さなエリアに、さまざまな歴史が詰まっている。

堰を流れる水を眺めながら、時の流れを夢想した。400年後の庄内にはどんな風景が広がっているだろう。そして、私たちが生きるこの時代を、彼らはどんな想いで見つめているのだろう。

編集・文＝松本 典子　写真＝間 真由美
協力＝庄内町役場 情報発信課／商工観光課

「芭蕉上陸の地」にて

御諸皇子神社の境内から見た清川。
最上川が本当に近い!

耳より清川かわら版

明治維新の火付け役！
清川出身の志士、清河八郎

(公財)清河八郎記念館

昭和37年、清河神社境内に開館。八郎の遺品や明治維新に関する資料が保管・展示されている。

清河神社

八郎を文武両道の神と奉って創建。毎年5月30日に例大祭が行われる。

清河八郎(きよかわ・はちろう)

本名・齋藤元司。18歳で江戸に上り、25歳の時に「経学・文章指南」の塾を開く。この時「清河八郎」と改名した。その後「浪士組」を結成し尊皇攘夷への回天を図るが、34歳の時に志半ばで暗殺される。八郎の死後、浪士組は新撰組、新徴組へと分かれ、幕末の動乱へと進んでいく。歴史小説では策士として描かれることが多いが、清川では文武両道の英傑として語られている。

清河八郎の生家跡

江戸時代に造り酒屋を営んでいた庄内有数の名門。今では玄関の松のみが残る。

清河八郎の墓

両親や妻・お蓮とともに清川の歓喜寺に埋葬されている。墓標は山岡鉄舟の筆。

これぞ、まさに鬼瓦

埋もれてますけど…

松、飛び出し注意

ふらっと寄り道

北楯大学利長の城跡を整備

楯山公園

おとなりの狩川地区にある公園。園内には北楯大学利長を水の神として祀った北楯神社もある。

バナナボート

あづまや菓子舗の銘菓。プレーン(230円)、チョコレート、抹茶(各260円)の3種類がある。